

あすなろ

2024年9月20日

みみレター

第5号

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校

校内支援部 (文責 足立)

田門 浩さん 国連障害者権利委員に選出

日本人としては2人目

国連の障害者権利委員会の委員に日本から立候補した田門 浩さんが2024年6月に選出されました。

日本人としては2人目で、世界の障害者の権利を守る活動に当たることとなります。

国連の障害者権利委員会は、障害に基づくあらゆる差別を禁止した「障害者権利条約」によって設置された機関で、各国の状況を審査して問題があれば改善するよう勧告します。

ニューヨークの国連本部では11日、18人の委員のうち改選される9人を選ぶ選挙が行われ、日本から立候補した聴覚障害者で弁護士の田門 浩さんが13人の候補者の中で最も多い157票を得て選出されました。

日本人としては、2020年まで委員を務めた石川 准さん以来、2人目です。田門さんは、25年以上にわたって弁護士として障害者の人たちの権利の保護に取り組んできました。委員としての任期は来年1月から4年間で、世界の障害者の権利を守る活動に当たることとなります。

田門さん「ろう者も世界で活躍できる」

日本人として2人目となる国連の障害者権利委員会の委員に選出されたことについて田門 浩さんは「各国から期待されることに重責を感じている」と手話で話しました。そのうえで「障害者権利委員にはこれまでろう者はわずかしかいなかった。ろう者がその一員となることで、社会からろう者も世界で活躍できるのだと、理解が深まっていくと思う」と期待を示しました。

(出典：朝日デジタル)

ろう者の劇団が手話で狂言

“手話やろう文化への理解を” 東京

手話やろう文化への理解を深め、多様性が尊重される社会のあり方を考えようという催しが東京で行われ、ろう者などでつくる劇団が伝統芸能の狂言を手話を使って演じました。

手話による狂言は、演者がせりふを手話で表現しながら舞台上を動き、それにあわせて狂言師が声を発していくもので、手話がわかる人もわからない人もともに楽しめる演劇として、日本ろう者劇団が40

年以上にわたって国内外で上演しています。東京・

港区のホールで、新築したお堂に安置する地藏を作る

仏師を探す男とそれをだまそうとする人を描いた

「六地藏」という演目が上演され、俳優がアドリブを

入れると観客席から大きな笑い声が上がっていました。

主演をつとめた劇団代表の江副悟史さんは、「去年

亡くなった前代表の米内山明宏さんが残してくれた手話狂言を、後進の私も含めみんなで受け継いで

いけたらと思っています。狂言の面白さと、手話が入ることでより面白くなることを感じてもらえたらう

れしいです」と手話で話していました。

(出典：朝日デジタル)

ほ ちよう き てん らい こう び 補聴器店 来校日

< 13:10~ 通級教室 >

□神戸ヒヤリングセンター 10月10日(木) 10月24日(木)

□トーチン姫路補聴器センター 10月4日(金) 10月18日(金)

補聴器の故障や買い替え、作りの作り替えの際は、補聴器店 来校日を確認して、担任にお申し出ください。